



みすずかる信濃を染むる蕎麦の花

佛花なほ寒九の水に反り返る

柔道着寒林に声残しゆく

テレビてふ怪物とゐて小正月

そば処湯氣に春の香貰ひけり

マスクして大胆になる怖さかな

新作の鬼平に酔ふ春灯

涅槃西風どこ吹く風の余生なり

春帽子ひさしを背ナの若さかな

桜薬降るしたたかにまた生きん

根元まだ円く乾きて青時雨

茶筅切り茄子紺極め揚がりけり

反りの美の棒高跳びや今年竹

浮蓮やキャツチアーフライ受くる態

経過良しナース溜りの水中花

濃き太郎淡き次郎や椎の花

蓑長嶋と古稀歩みけり

茄子の馬母の小言を乗せてくる

日照雨来て臭木の匂ふ森に入る

肩甲骨ぐるぐる回し今朝の秋

燈火親し妻と使ひし電子辞書

婚支度障子貼ることより始む

掃苔と書いて例会欠席す

吼ゆる犬さやかに制し検針婦

世代交代病葉を掃いてをり

定位置の秋扇坐し部屋締まる

有難うそのひと言の冬ぬくし

花壇の壺庭灯す歯切れよし

乱心と思へるほどのこぼれ萩

風邪の妻臥して指図の多弁なる